



独立行政法人

国立病院機構

National Hospital Organization

中国四国グループ

職場 紹介

技術を磨く。夢を叶える。
あなたの笑顔をまっています。

● 言語聴覚士



作成

国立病院理学療法士協議会

中国四国部会

国立病院作業療法士協議会

中国四国グループ部会

国立病院言語聴覚士協議会

中国四国グループ部会

中国四国グループ関連病院・施設の紹介

* は、ST不在施設(令和6年7月1日現在)

鳥取県

鳥取医療センター

米子医療センター*

島根県

松江医療センター

浜田医療センター

岡山県

岡山医療センター

南岡山医療センター

長島愛生園

邑久光明園

広島県

呉医療センター

福山医療センター

広島西医療センター

東広島医療センター

賀茂精神医療センター*

山口県

関門医療センター

山口宇部医療センター

岩国医療センター

柳井医療センター

徳島県

とくしま医療センター東病院

とくしま医療センター西病院

香川県

高松医療センター

四国こどもとおとなの医療センター

大島青松園*

愛媛県

四国がんセンター

愛媛医療センター

高知県

高知病院



鳥取医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士19名

作業療法士23名

言語聴覚士8名

当院の特徴

『脳』と『こころ』の病院です。

当院は鳥取県東部を診療圏域とする中国四国グループの「精神疾患」に関する中心的施設であるとともに、神経・筋疾患、呼吸器疾患、重症心身障害に関する専門的な医療等の機能を備えた医療施設です。特に地域医療として回復期リハビリテーションと認知症の診療を行っており、近年は「パーキンソン病センター」を開設し、県内外の患者さんに対し専門的なリハビリテーションを提供しています。

職場責任者からのメッセージ

当院リハビリテーション科では、職員一人ひとりが充実した職場環境で働きがいを感じながら成長できるよう努めています。社会性や専門性を高めるため、日々研鑽を積み、患者様に最適なリハビリテーションを提供しています。組織内では各自が自己の役割と責任を認識し、チーム全体で「患者ファースト」の精神を大切に業務に取り組んでいます。また、専門的な教育プログラムや研修が充実しており、スタッフが自身のキャリアを積み重ね、成長できる環境が整っています。患者さんの生活の質向上を目指し、全力でサポートしています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
 電話番号（代表）：0857-59-1111
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://tottori.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では、回復期、重症心身障害、神経難病、精神の4つの領域において、各専門職との連携によるチーム医療を推進しています。言語聴覚士（ST）の在籍数は中国四国グループ内で最多を誇り、患者さん一人ひとりの生活様式に応じた目標の設定とその実現に向けて、在宅復帰、職場復帰、復学、運転再開など多様な支援を行っています。また、小児科をはじめ多くの診療科からの依頼を受けており、成人から小児まで幅広い対象に対応しています。パーキンソン病短期集中リハビリテーションや発達外来、VF/VE検査結果にもとづく嚥下訓練など、専門性が高く、地域に根ざしたリハビリテーションを提供しています。



教育体制

新人教育においては、当科独自の新人教育プログラムに基づき、プリセプターを中心として、年間を通して社会人基礎力や言語聴覚士（ST）としての専門スキルの向上をサポートしています。また、院内では多くの研修が実施されており、他部門の研修にも自由に参加することができます。経験の有無にかかわらず、職種の垣根を越えて自己研鑽に励むことができる環境が整っています。さらに、LSVT®LOUDなどの専門資格の取得も積極的に支援しています。

学術活動

令和6年度 「神経・筋疾患」政策医療ネットワーク協議会発表：1名

令和6年度「難病研修会」の講師を務めました

LSVT®LOUD 認定資格保有者3名

他部門との連携

各病棟では、患者さんの症状に応じて適宜、多職種による合同カンファレンスが開催され、医師・看護師・リハビリテーションスタッフなどの関連職種が連携しながら、訓練の進捗状況や在宅復帰に向けた支援策を検討しています。また、院内では委員会やラウンドにも積極的に参加しており、とくにST分野では、NST（栄養サポートチーム）や摂食嚥下障害対策委員会（嚥下チーム兼任）、物忘れ外来などで他職種と協働しながら専門性を活かした活動を展開しています。

先輩からのメッセージ

2年前に他院から転職し、鳥取医療センターに配属されました。神経難病、精神科、回復期、重症心身障害など、さまざまな病棟で言語聴覚士としての経験を積める環境が整っており、自分の興味ある分野を深めながら成長できることが当院の大きな魅力です。日々の臨床では、患者さんからの「あなたでよかった」という言葉に支えられ、大きなやりがいを感じています。知識や経験に不安を感じることもありますが、先輩や同僚と支え合いながら、安心して働ける職場です。私たちと一緒に、国立病院機構中四国グループで働きましょう！（入職3年目）



松江医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士10名

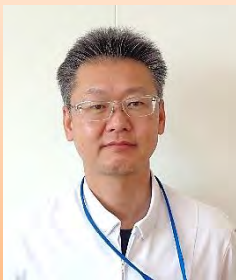
作業療法士5名

言語聴覚士3名

当院の特徴

島根県と鳥取県西部を診療圏として、呼吸器疾患・神経筋疾患・重症心身障害医療の3領域を専門とした医療機関です。呼吸器疾患に関して地域における「呼吸器病センター」として自負を持ち診療にあたっています。神経難病に関しては、島根県の難病診療分野別拠点病院（神経）に指定されています。

職場責任者からのメッセージ



「ともに考え、ともに成長する」ことを目標とし、組織人としての資質を高め、地域に求められる医療を提供し、患者確保にも努めます。またワークライフバランスも重視し、この職場やNHOで働き続けたいと思える職場づくりを目指します。松江はチームワークが良く、困ったときには皆で助け合うことができる誇らしい職場です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒690-8556 島根県松江市上乃木5-8-31

電話番号（代表）：0852-21-6131

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://matsue.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院では神経難病、呼吸器疾患、重症心身障害を中心に、乳幼児から超高齢者まで幅広い疾患、年齢層の患者さんに対して摂食嚥下訓練、発声発語訓練、発達訓練を主にリハビリテーションを行っています。従来から長期療養の患者さんが多く、患者さん一人一人に対して長期間に渡りじっくりと向き合ってサポートすることが多かったですが、近年はそれに加えてパーキンソン病を主な対象とした短期集中リハビリテーション入院が増加しており、短期間での在宅復帰に向けた支援が求められています。



教育体制

一般的な業務内容についてはPT、OTと同様の教育プログラムを使用して指導を行います。ST診療については経験豊富な先輩が適宜、助言・指導を行います。少人数部門の良さであるコミュニケーションのとりやすさを活かし、意見や思いを伝えやすい雰囲気づくりを心がけています。

学術活動

令和6年度実績：講師 2件（難病医療従事者研修、重度訪問介護従事者研修）
日本言語聴覚学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本神経摂食嚥下・栄養学会等の各種学術集會に積極的に参加しています。
国立病院総合医学会において研究発表を行うことがあります。

他部門との連携

脳神経内科、呼吸器内科や退院前に行われる各種カンファレンスに参加し情報共有をしています。

栄養サポートチーム（NST）に参加し医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師らと協働して活動を行っています。特に摂食嚥下認定看護師とは嚥下分野で密な関わりがあります。
嚥下造影検査でも多職種と協力して検査を行っています。

先輩からのメッセージ

今年の春より他医療機関から国立病院機構松江医療センターに入職しました。当院では呼吸器疾患や神経難病の患者さんが多く、今までリハビリを行ってきた患者さんとは対象疾患が異なるため最初は戸惑うことも多かったです。それでも経験豊かな先輩方に相談、指導に乗っていただきながら日々切磋琢磨し、一新人として新たな一歩を踏み出し始めたところです。ぜひ、国立病院機構中四国グループに興味を持って頂けたらと思います。





浜田医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士19名

作業療法士13名

言語聴覚士5名

当院の特徴

当院は、県西部唯一の3次救急医療から在宅復帰まで、幅広くカバーする地域の中核病院です。理学療法は、急性期・回復期・地域包括・緩和ケアに大きく分かれており、脳血管疾患、心大血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、がん患者等の幅広い疾患を対象にリハビリテーションを行っています。

職場責任者からのメッセージ



浜田医療センターリハビリテーション科は「必要なリハビリテーションが行き渡る体制の継続」「適切な診療報酬を請求しながら病院収益に貢献する」「来年も浜田医療センターで働きたいと思う職場環境をみんなで作る」を目標に掲げ、日々励んでいます。

「医療を通じて“地域で生きる”を支援する」という病院理念のもと、リハビリでも急性期・回復期・地域包括・緩和ケアなど幅広い病期や領域に対応しているのが特徴です。こういった特徴をもつ病院は珍しく、スタッフも多彩なスキルを習得する必要がありますが、それだけに良い経験ができる職場だと考えております。

誰もが学べて成長でき、充実した職場を目指していきます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒697-8511 島根県浜田市浅井町777-12
 電話番号（リハビリテーション室）：0855-28-7098
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://hamada.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は、島根県西部唯一の3次救急指定病院であり、急性期医療を中心に、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟を有する地域の中核病院で、病床数は347床あります。

現在、リハビリテーションスタッフ36名の中で5名のSTが在籍しています。ベテラン、中堅と5年目以下の若いスタッフも多く在籍する明るいリハビリテーション科です。

STの関わる疾患は、脳血管疾患を中心に呼吸器疾患・外科疾患・内科疾患と多岐に渡っています。そのため、高次脳機能障害、コミュニケーション障害、嚥下障害など様々な症状を対象にリハビリテーションを行うことができます。



教育体制

新人教育については、リハビリテーション科全体で力を入れて取り組んでおり、プリセプター制度を取り入れ、科内での新人教育プログラムを実施しています。院内外で行われる勉強会にも参加しやすい環境で各自、自己研鑽に励んでいます。

学術活動

NST専門療法士臨床実施修練修了者1名
がんのリハビリテーション研修修了者を4名有しています
附属の看護学校で講師として講義を行っています

他部門との連携

栄養サポートチーム(NST)に参加し、毎週多職種で回診を行っています。
リハビリテーション医によるVF/VEも実施しており、より緻密なアプローチを目指しています。

先輩からのメッセージ

入職当初、回復期リハビリテーション病棟に配属となり、多岐にわたる業務をこなしていけるか不安がありました。しかし、経験豊富な先輩方からアドバイスを頂きながら、4年間で回復期の臨床も含めた様々な経験を積むことができました。

STにとって必要な知識を幅広く学ぶことができる職場です。ぜひ、国立病院機構中国四国グループと一緒に働いてみませんか。
(入職5年目)





岡山医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

運動器

循環器

脳血管

新生児

呼吸器

がん

神経難病

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士23名

作業療法士8名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当院は平均在院日数が約10.5日の急性期病院です。対象となる疾患は、整形外科・循環器・脳血管・新生児・呼吸器・がん等多岐にわたります。早期介入と早期の機能回復をスローガンとし、介入は入院直後または術後当日の早い段階から行われます。心臓リハビリテーションでは心肺運動負荷試験に基づいた運動指導や日常生活指導などを含む、包括的かつ集学的なリハビリを行っています。呼吸ケアサポートチームや緩和ケアチーム、栄養サポートチームなどにも参加し、多職種と協同した活動も行っています。

職場責任者からのメッセージ

当院は急性期医療に特化しており、上記のように平均在院日数の短縮化を目指しているため、リハビリテーション科には早期介入と介入効果の向上が常に求められます。

そのような患者さんや病院からのニーズに応えるためにも、当科では職員研修の充実を図っています。新人・中堅職員・役職者など世代別対象の研修やプレゼンテーション指導に注力し、在籍している職員がインセンティブを感じられる職場作りに努めています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-1192 岡山県岡山市北区田益1711-1

電話番号（代表）：086-294-9911

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://okayama.hosp.go.jp/>

504-info@mail.hosp.go.jp



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では成人・小児・新生児領域の患者さんを対象にリハビリテーションを提供しています。

脳血管疾患、神経難病、呼吸器疾患、がんなどにより言語や摂食嚥下機能に障害が生じた様々な患者さんを対象としています。

言語聴覚療法については、早期コミュニケーション手段の獲得、さらには円滑なコミュニケーションを図ることを目的に、失語症を含む高次脳機能障害、構音障害、音声障害等に対して評価訓練を実施しています。

摂食嚥下リハビリテーションについては、栄養手段の確保および安全な経口摂取の継続を目的に、医師・看護師等とともに嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査、嚥下機能訓練を積極的に実施しています。

言語訓練



嚥下造影検査



教育体制

リハビリテーション科研修会を定期的（1回/週）に開催しており、理学療法士、作業療法士とともに日々の臨床の振り返りやスキルアップにつなげる機会があります。

医療安全研修・感染管理研修など医療職として必要な知識の習得に関わる研修会が開かれています。

がんのリハビリテーション研修等の資格取得をサポートする体制があります。

学術活動

院内で嚥下評価および嚥下リハビリテーションの研修を行っています。
看護学生に対して高次脳機能障害、嚥下リハビリテーションの講義を行っています。

他部門との連携

各診療科ごとに定期カンファレンスを実施し、多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカー等）とともに情報共有に努めています。

患者さんに安全な食事環境を提供するために、医師・看護師との情報共有を積極的に行っています。

先輩からのメッセージ

当院では新生児～高齢者の急性期患者さんに対して早期から評価・介入に携わることができます。発症直後は困難であった「話すこと」「食べること」が日々改善していく喜びを共有できることは言語聴覚士として大きなやりがいを感じられます。また、障害が残存してしまった患者さんに対して、より良く過ごしていただくためにチームでアプローチすることの大切さを学べます。





南岡山医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士11名

作業療法士9名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は、神経・筋疾患病棟、重症心身障害児者病棟、呼吸器感染症病棟、急性期病棟を有しています。リハビリテーションにおいても入院・外来患者さんの急性期・維持期に介入しています。職員は、子育て世代、介護世代等と各年代層の背景に対応できるようワークライフバランスを支援しつつ、職員の目指すキャリアアップも支援しています。

職場責任者からのメッセージ



みなみ君

職場は新卒1年目から、25年前後までの経験年数を有するスタッフで構成されています。臨床業務について常に先輩からの指導や助言が得られる体制です。職員間のコミュニケーションも経験年数に関わらず連携がとれるようにしています。また、ハラスメント防止についても積極的に職員への啓発を行うとともに、メンタルサポートにも気を配っています。「職員みんなが働きやすい職場、働き甲斐のある職場、病院のために頑張る職場」をモットーにしています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066

電話番号（代表）：086-482-1121

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://minamiokayama.hosp.go.jp/>アクセス：https://minamiokayama.hosp.go.jp/about/index_3.html

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では、神経・筋疾患、呼吸器疾患、重症心身障害、小児の発達障害等の領域において評価・訓練を実施しています。

入院患者さんにおいては摂食嚥下障害に対する訓練が中心となっていますが、外来においては、発達障害を抱えた小児患者さんも多く、言語発達、コミュニケーション促進を目標に訓練に取り組んでいます。

昨今、誤嚥性肺炎による入院が増えていることから、在宅患者さんの誤嚥性肺炎予防を目的に、医師・看護師・栄養士らと多職種チームを組んで嚥下外来を行っています。



教育体制

当科規定の新人教育プログラムに基づき、新採用職員の指導を実施しています。また、部門内の勉強会に加え、院外の勉強会についても情報提供を行い、自己研鑽の機会を提供しています。

学術活動

学会発表：令和6年度 1件

その他：近隣の保健所が主催する、在宅の難病患者さんを対象とした相談会に毎年参加しています。

他部門との連携

毎月、呼吸器内科、脳神経内科、小児科等において、多職種（医師、看護師、メディカルソーシャルワーカー等）カンファレンスに参加しています。

毎週、栄養サポートチーム（NST）のカンファレンス・ラウンドに参加しています。

毎月、摂食嚥下サポートチームのチーム会・カンファレンスに参加しています。

多職種（医師、看護師、栄養士）と連携し、嚥下外来において評価・訓練を実施しています。

先輩からのメッセージ

当院は神経難病や高齢の患者さんが多く、患者さんの病状に加えてご本人やご家族のご意向を汲み取りながらのリハビリテーションを行うことが必要とる場合もあります。患者さんにとって何が最善なのか、毎日悩みは尽きませんが、先輩方や上司の丁寧な指導、多職種の方に日々支えられ、充実した毎日を送っています。

また国立病院機構は新採用研修や専門分野の研修等、入職後のスキルアップ体制が整っていることも魅力の一つです。

この成長できる国立病院機構中国四国グループで一緒に働きましょう！



国立療養所 長島愛生園

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 4 名

作業療法士 1 名

言語聴覚士 1 名

当院の特徴

当園は1930（昭和5）年に、日本で初めての国立療養所として誕生しました。その当時ハンセン病が感染症であることはわかっていましたが、有効な治療法がなく、国の政策として療養所への隔離が行われました。入所者の皆様は、ハンセン病という病気は治っているにも関わらず、高齢化や後遺症、今なお残る偏見・差別により社会復帰が困難なため、当園で生活されています。

職場責任者からのメッセージ

当園は入所者ファースト、職員もファーストをモットーに全職員が一丸となり、日々の業務に取り組んでいます。入所者の皆様と接する中で、社会的背景を理解し、ハンセン病の歴史に深く感慨がわくものと思います。またワークライフバランスも重視しており、この職場やNHOで働きたいと思える職場づくりを目指しています。チームワークではどこよりも優ると自負している当園の理学作業療法室に、ぜひ一度お越し下さい。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-4592 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6539

電話番号（代表）：0869-25-0321

理学作業療法室：泰地（たいち） 内線：828

<https://www.hosp.go.jp/~aiseien>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法では、他の病院や施設と同様に、ハンセン病の後遺症に加えて、入所者の超高齢化もともない、摂食嚥下障害の評価・訓練などの必要性が増しています。そのため耳鼻咽喉科医師をはじめとする他職種と協力して、摂食嚥下障害の対応を中心に行っています。



教育体制

園内外での勉強会や研修会のほか、施設内での研修会の講師や部署内での症例検討やリハビリテーションカンファレンスも随時行っています。

また、摂食嚥下に関しては他職種の先輩方からも指導を受けることができます。

学術活動

毎週月曜は近隣施設の邑久光明園に派遣講師として出張しています。当園ではNST活動を月に2回、摂食嚥下障害支援チーム（SST）活動を週に1回参加しています。

他部門との連携

リハビリテーション部門のほか、NST（栄養サポートチーム）やSST（摂食嚥下サポートチーム）とも連携しており、耳鼻咽喉科医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、義肢装具士、理学・作業療法士とともに随時情報共有しながら活動しています。

先輩からのメッセージ

当園は入所者ファースト、職員もファーストを掲げており、療法士はそれぞれ課題を持って業務に取り組んでいます。現在のところ、当園には言語聴覚士は私1人の状態ですが、隣接する邑久光明園との交流もあることから、摂食嚥下のチーム医療についても言語聴覚士どうしでの情報共有を行えています。どうぞよろしくお願い致します。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

総合診療棟外観



邑久光明園全景



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士3名

作業療法士 2 名

言語聴覚士 1 名

当院の特徴

国立療養所邑久光明園は、全国に13ある国立ハンセン病療養所のうちのひとつで、岡山市の東南35Kmの瀬戸内海に浮かぶ長島にあります。瀬戸内海の温暖な気候と四季折々の美しい自然に満ちあふれた環境は、療養に最適の地とされております。

ハンセン病はらい菌によって引き起こされる慢性の感染症です。この菌は神経組織との親和性が高く、末梢神経がおかされることによって生ずる神経障害がもっとも重要な症状です。現在では、抗生剤を中心とする治療法が確立されており、完治する疾病です。

しかし、現在当園におられる入所者様の多くは有効な治療法がない時代に発症したため、重複した障害を後遺症として残してしまいました。また、入所者様の平均年齢は約88歳と高齢化しています。そのため、リハビリテーション及び介護予防が重要となっています。

職場責任者からのメッセージ

邑久光明園の職員は入所者の皆様の一日一日を大切にし、今後の人生をよりあるものにできるよう仕事に従事しています。

また、職場はワークライフバランスの取り組みを推進しており、働きやすい職場環境を整えています。業務は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・義肢装具士が連携し、入所者の皆様がよりよく生活できる様に努めています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-4593 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6253

電話番号（代表）：0869-25-0011

リハビリテーション室まで

<https://www.mhlw.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では、主に摂食嚥下障害の評価・訓練を行っています。ハンセン病の後遺症による器質的要因に、高齢化によるサルコペニア、フレイルが重なって、少しずつ食べることが難しくなっています。そこで、多職種から成る摂食嚥下障害対策委員会（SST）のチームの一員として、入所者の皆様の楽しみである「食べる」を支援しています。

言語聴覚療法部門は歯科・摂食嚥下リハビリテーション室に所属しています。歯科医師、歯科衛生士と協力し、入所者の皆様の摂食嚥下機能維持に努めています。理学療法、作業療法部門とは所属が異なりますが、訓練室は近接しており、いつでも情報交換できます。



教育体制

入職後3日間新採用者研修があり、ハンセン病や療養所の歴史について、当事者である入所者の方から直接お話を聞くことができます。

歯科医師がSST委員長を務めており、理学・作業療法士もSSTメンバーです。「食べる」と「口腔」は密接につながっており、日々の情報交換、カンファレンスを通じて、口腔にまつわる様々なことを身近で学ぶことができます。

療養所という生活の場で、SSTメンバーと活発な意見交換が行えるため、その人のニーズや生活様式を考慮しながら「食べる」を支援するということが具体的に学べます。

園内で各種研修会が開催されています。また、園外の研修会についても随時情報提供されています。

他部門との連携

SSTの他に、人生サポートチーム（JST）、栄養サポート・創傷対策委員会（NST）、医療安全管理委員会、感染対策委員会と各種チームが活動しています。

STが密接に関わるSSTは、チームで食事場面を評価し、多職種の多角的な視点で改善点を話し合うため、スピーディーに対応できています。

先輩からのメッセージ

入所者の皆様がいずれも90歳前後の超高齢であることから、機能の維持・改善のみでなく、生活の場において、いかにその方のニーズを尊重し、QOLを維持するかを考えなければなりません。これが難しくもあり、楽しくもあります。毎年光明園では、SSTとして、お正月に餅を食べたい入所者の皆様の摂食嚥下評価を行っています。病院で餅を食べるのはほぼ不可能ですが、チームで動くことで、こうした難問にもチャレンジできています。





対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ

スタッフ数

医師3名

理学療法士21名

作業療法士13名

言語聴覚士6名

当院の特徴

当院は39診療科、病床数700床を有する国立病院機構の中の大規模病院のひとつであり、「地域がん診療連携拠点病院」、「3次救命救急センター」、「地域周産期母子センター」、「災害拠点病院」、「地域医療支援病院」などの機能を有する中核的な高度急性医療機関です。

職場責任者からのメッセージ

呉医療センターリハビリテーション科では相互尊重コミュニケーションを実践し、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。約40名のスタッフ各々が役割を担い、科内で活躍できる場面が準備されています。また、抄読会や症例報告、勉強会などを積極的に実施し、個々の臨床力およびリハビリテーション科の組織力向上に努めています。資格や認定の取得、学術活動の推進も行っています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒737-0023

広島県呉市青山町3丁目1

電話番号（代表）：0823-22-3111

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://kure.hosp.go.jp/>

呉駅よりの案内図

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では、高度急性期の脳血管疾患・がん・摂食嚥下障害などの患者さんを中心に言語聴覚療法・摂食機能療法等を実施しています。

特に摂食嚥下障害に対しては、院内に「摂食嚥下支援委員会」が設置され、耳鼻科・脳神経内科医師・薬剤師、管理栄養士、摂食嚥下認定看護師、言語聴覚士などからなる「摂食嚥下支援チーム」が形成され、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査等による評価のもと、毎週定期的に合同カンファレンスを行い、詳細に・他覚的に・継続的な介入を行っているのが特徴です。



教育体制

新人に対しては、当部門新人教育プログラム・スケジュールに基づき、プリセプターを中心としたサポート体制のもと、無理のない計画的な指導教育を行っています。

科内でも教育・学術部による勉強会・文献抄読会・症例発表会があります。また、院内では毎年多数の各種研修が実施され、充実した自己研鑽の場が提供されています。

学術活動

過去の発表実績： 令和6年度 2件

国立病院総合医学会での学会発表や、院内での症例発表を行っています。

NST40時間研修における講義「嚥下機能と栄養管理」に対して講師派遣を行っています。

他部門との連携

入院から退院までの間に、定期的に、脳神経外科・内科、リハビリテーション科、NST、摂食嚥下支援チームなどを中心に、PT・OTに加えて、多職種（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・摂食嚥下認定看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）からなるカンファレンスが行われています。

先輩からのメッセージ

言語聴覚士として5年目になります。当院は、高度総合医療施設です。脳血管疾患をはじめ、呼吸器疾患、神経難病・がん等、幅広い疾患の患者さんに携わることができ、専門的な知識・技術を深めることができます。日々貴重な臨床経験が積めますし、患者さんに関わっていく中で変化が見られた時は、とてもやりがいを感じます。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士14名

作業療法士10名

言語聴覚士3名

当院の特徴

広島県東部医療圏の中核病院として、岡山県西部地域の医療も担っています。「苦痛のない医療」を実践すべく、内視鏡や腹腔鏡を駆使した検査処置や手術に加え、緩和ケアチームをはじめとして各職種の強みを発揮したチーム医療を促進しています。また、治療方法の開発など臨床研究や治験についても積極的に行っています。

職場責任者からのメッセージ



福山医療センターでは、忙しい日々の中でもスタッフ全員が真摯に患者さんと向き合い、前向きに業務に取り組んでいます。教育・発表の機会も豊富で、常に学び、成長できる環境が整っています。チーム内の連携も良好で、助け合いながら楽しく働けるのが当科の魅力です。

是非一緒に、新たな一歩を踏み出しましょう。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒720-8520 広島県福山市沖野上町4丁目14-17

電話番号（代表）：084-922-0001

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://fukuyama.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は350床（一般317床、ICU4床、HCU5床、NICU12床、GCU12床）を有し、地域の基幹病院としての役割を担っています。

言語聴覚士は外科・整形外科・呼吸器外科・頭頸部外科などの周術期、COPD・間質性肺炎・肺がんなどの呼吸器疾患、加齢などによる誤嚥性肺炎等、摂食嚥下機能障害の患者さんを対象に、嚥下機能評価や訓練を行っています。また放射線治療や化学療法などによる経口摂取困難に対する支援も行っています。

耳鼻科医と連携を図り、必要な患者さんに対しVE・VFなどを用いた評価を実施し、安全な経口摂取法の提案やQOL向上に向けた支援を実施しています。新生児の哺乳評価や支援、小児の摂食嚥下障害、構音障害などにも携わっています。



教育体制

新人教育では、当科既定の新人教育プログラムに基づき、新採用者に対して指導係を配置して指導や助言を行い、漸増的な患者担当を遂行しています。

院内には摂食嚥下サポートチームはじめ多くのチームがあり、多職種での活動に参加し専門的な意見を聞くことができます。院内の勉強会や院外から講師の先生を招き開催されるオープンカンファレンスも充実しており、幅広い分野の自己研鑽ができる環境です。

学術活動

市主催の医学祭や県士会等の講師派遣

当院には、文献検索や文献の取り寄せができ、統計ソフトも保有しているため、研究や学会発表がしやすい環境です。先輩から発表等の指導を受けることもできます。

他部門との連携

食事に関して適宜、多職種（医師・看護師・栄養士など）とカンファレンスを行い、患者さんに適した食事形態の調整や栄養法の検討を行っています。

入院から退院までの間に定期的に多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）とのカンファレンスが行われます。また在宅に関わる職種の方と退院前カンファレンスを行い、病院から在宅へスムーズに移行できるよう連携を図っています。

先輩からのメッセージ

当院では新生児から高齢者まで、あらゆる世代の幅広い疾患の患者さんに携わることができます。言語聴覚部門は2011年に開設され、ニーズは年々増加しています。日々、新たな発見がたくさんある職場です。国立病院機構中国四国グループで、私たちと一緒に成長しませんか？





広島西医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士14名

作業療法士8名

言語聴覚士4名

当院の特徴

急性期病床と筋ジストロフィーやALSをはじめとする神経・筋疾患、重症心身障がい児（者）の療養病棟を兼ね備えた“ケアミックス型”の病院です。複数の異なった領域のリハビリテーションを経験できます。外来リハビリも行っています。

職場責任者からのメッセージ



神経・筋疾患への対応は学校で教わらないことも多く、勉強の毎日です。急性期リハビリテーションも含め、患者さんひとりひとりとしっかり向き合い、相手のニーズに応えられるようコツコツと努力する。。。そんなスタッフが多いです。「患者さんとともに」これからも、成長しつづけるリハビリテーション科を目指しています！

アクセス お問い合わせ先

所在地：739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号

電話番号（代表）：0827-57-7151

リハビリテーション科 廣川（職場長）まで

<https://hiroshimanishi.hosp.go.jp/>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院では

- ・神経筋疾患
- ・重症心身障がい
- ・がん

上記の疾患の方を中心にリハビリテーションを行っています。

《嚥下》

病棟で多職種と相談しながら、食形態の調整や食事姿勢の検討を行います。各患者の嚥下運動状態に応じて運動機能の改善を目標にリハビリを実施しています。また、必要に応じて、嚥下造影検査も行っております。

《構音》

音声障害や、構音障害等の症状に対し、患者さんやご家族と相談しながら構音訓練を実施しています。



教育体制

まずは訓練場面の見学から開始し、その後少人数担当していただきます。個人の理解度に合わせ、少しずつ学習を行っていただき、技術の習得をサポートいたします。

言語聴覚士だけでなく、理学療法士や作業療法士など職域をこえて、報告・相談・指導の受けやすい環境です。科内での勉強会や症例検討会も行っています。

学術活動

院内研修（看護師に向けた摂食嚥下の基礎的内容）の講師などを行っています。

他部門との連携

院内の委員会への参加や、多職種と協働しての研修やラウンド、カンファレンス等に参加する機会があります。

先輩からのメッセージ

当院は、様々な分野のリハビリテーションを行っています。分野が幅広いので悩む事も多いですが、先輩に相談しやすく、雰囲気の良い職場です。また科内での勉強会が定期的にあります。勉強会では新しい知識を身につける事ができ、自己研鑽につながります。

入職1年目ですが、福利厚生も整っており働きやすい環境であると感じています。



東広島医療センター

対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士12名

作業療法士7名

言語聴覚士3名

当院の特徴

広島中央医療圏の急性期中核病院として、科学的根拠に基づいた安心・安全な医療を提供します。政策医療であるがん、循環器病、呼吸器疾患、内分泌・代謝性疾患の専門医療施設として位置づけられ、これらの診療機能を果たすべく医療の提供はもちろんのこと、ナショナルセンター等との連携の下に臨床研究、教育研修、情報発信を積極的に行っています。

職場責任者からのメッセージ



当院では、入院患者さんの急性期（手術前後、発症直後）からリハビリテーションを実施しています。各科から処方される全ての疾患に対応しています。脳神経外科と脳神経内科がありますので神経難病も含めた脳血管疾患の患者さんが特に多いです。急性期ということもあり特に早期離床・早期回復を目指しており、在宅復帰あるいは回復期病院転院まで基本動作能力訓練や環境調整等を行います。また土日祝日であっても当日処方に対応できる診療体制を取っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：739-0041 広島県東広島市西条町寺家513
電話番号（代表）：082-423-2176
リハビリテーション科（中須賀）まで
<https://higashihiroshima.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院では、入院患者さんの急性期（手術前後、発症直後）からリハビリテーションを実施しています。各科から処方される全ての疾患に対応しています。脳神経外科と脳神経内科がありますので神経難病も含めた脳血管疾患の患者が特に多く、失語症を含む高次脳機能障害や脳血管疾患後遺症の嚥下障害に対する需要が高いです。

嚥下では嚥下サポートチームの一員として嚥下機能検査から訓練プログラム案の作成、食形態の選定まで一貫して関わっていきます。また聴覚検査も担当しており、純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンスオーディオメトリーを行っています。



教育体制

科内で定期的な勉強会があり、新しい知識の習得や担当患者さんの症状への理解を深めることができます。また、有料文献のフリーアクセス可能な端末がありますので疑問点が生じたときに論文を閲覧しやすい環境になっています。嚥下分野では、耳鼻咽喉科医師や嚥下認定看護師等、関係職種とディスカッションを行うことで障害に対して総合的な理解を深めていきます。

学術活動

令和6年度：0件

他部門との連携

SST（嚥下サポートチーム）のメンバーとして耳鼻咽喉科医師をはじめとした多職種と共同で病棟回診、カンファレンスを実施し嚥下困難患者の経口摂取をサポートします。

NST（栄養サポートチーム）のメンバーとして栄養不良患者の栄養摂取を嚥下面からサポートします。

先輩からのメッセージ

当院では急性期から様々な疾患と関わるため、より豊富な経験と知識を得る事が出来ます。言語聴覚部門はスタッフ数が少ないため一人が受け持つ患者さんは多めですが、その分様々な疾患、障害を経験することができます。

カンファレンスも定期的に行われており多職種との連携も取りやすい環境が整っています。





関門医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ

スタッフ数※

理学療法士16名

作業療法士11名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当院は山口県西端に位置し、下関市から県北西部を医療圏とする救急指定病院です。また、病床数は400床（医療法）で、救命救急センター・ICU・急性期一般・地域包括ケア病棟を有し、救命医療から在宅復帰までの医療サービスを提供している点が特徴です。

職場責任者からのメッセージ



当科では高齢者救急への早期介入と、部門・職種間連携を推進しています。人材育成では、地域に求められる医療人の育成を目指しています。若手職員はジョブローテーションを通じて複数の先輩から指導助言を受け、経験を積みます。また、異動転入の職員には基幹業務を一通り経験頂きつつ、キャリアイメージや専門性に応じて業務を調整しています。当科は諸先輩方からの One-Team 精神を引き継いで、互いにフォローし合いながら、安心して働ける職場環境を目指しております。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒752-8510 山口県下関市長府外浦町 1 - 1
 電話番号（代表）：083-241-1199
 リハビリテーション科（職場長） 安川（やすかわ） まで
<https://kanmon.hosp.go.jp/>



関門医療センター

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

「超急性期」から「地域包括ケア」まで、地域社会に貢献できるリハビリテーションサービスを目指し、365日体制で急性期リハビリテーション医療を進めています。

摂食機能療法では、耳鼻科医によるVE検査を実施しており、多職種と連携しながら進めることができます。

言語療法では、脳疾患、神経難病や廃用症候群など、比較的幅広い診療分野に関わることができます。



言語聴覚室前
(抽象画が飾ってあります)



言語聴覚室内

教育体制

新人教育では、新人スタッフ1名につき、指導者を1名配置しています。育成状況は、新人教育部会で共有され、指導・助言を行います。

理学療法・作業療法の症例検討会や勉強会にも参加し、共通認識の向上を図っています。

学術活動

各種関連学会での学術発表は自由に行うことができ、がんのリハビリテーション研修などの研修修了や資格取得に関する支援も行っています。

他部門との連携

診療科ごとに、定期的にカンファレンスを実施しています。その他、栄養サポートチームで、入院患者さんの栄養状態を横断的にチェックして、必要な栄養量の確保や食事形態などについて、チームで取り組みを行っています。

先輩からのメッセージ

急性期病院ではありますが、救急受け入れだけでなく、地域包括ケア病棟を介した在宅復帰まで、幅広い範囲の業務があります。

高齢者の多い地域でもあり、摂食嚥下障害の患者さんも多く、多職種で連携したアプローチ方法が重要な役割を果たしていると思います。

仕事は先輩から丁寧に指導いただけますし、臨床経験を積みながら、将来のキャリア形成への取り組みも実施しやすい環境となっています。



山口宇部医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士5名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は「がん」「呼吸器」「重心」を診療の3本柱として掲げています。がん・呼吸器疾患の専門病院として高度で専門的な医療を提供しています。また重症心身障害児者の専門施設としてきめ細やかな医療と療育を提供しています。中国四国グループの中でも特徴ある診療を行う数少ない施設のひとつです。

職場責任者からのメッセージ



当院は呼吸器・がん・重心に特化した施設です。それぞれの分野を深く勉強するにはとても適した環境だと思います。

関わりが長期にわたる患者さんもいますので、リハビリテーションスタッフ間はもちろん、多職種間でもコミュニケーションを取りながら治療に携わっています。スタッフ同士で気軽に相談しやすい環境です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒752-8510 山口県宇部市東岐波
電話番号（代表）：0836-58-2300
リハビリテーション科（職場長）まで
<https://yamaguchiube.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日祝休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語療法部門では、呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎、肺癌転移性脳腫瘍など）・重症心身障害児（者）を対象に、摂食嚥下障害、高次脳機能障害、言語障害に対してリハビリテーションを行っています。一般病棟では、周術期～維持期・終末期など様々な期間に介入しています。重症心身障害児（者）病棟では、医師・看護師・保育士等、多職種と連携し、本人のもっている「機能」を最大限活かせるように、「QOL」の維持・拡大を意識した介入を行っています。



教育体制

新人教育は、当科既定の新人教育プログラムに基づき指導を行っています。また、担当の指導係を配置し、適宜必要な指導や教育を行っています。院内研修や勉強会なども多数あり、参加できます。

他部門との連携

定期的に多職種でのリハビリカンファレンスが行われます。通常訓練に関しても、主治医・看護部・療育部門・栄養部門などと適宜情報交換を行いつつ、訓練立案をしています。重心病棟に関しては、摂食嚥下の姿勢調整(車椅子の姿勢調整も含む)などは多職種と共同で協議し、情報を共有する必要があるため、臨時で関係スタッフが集まり検討することもあります。退院前カンファレンスを通じて、地域医療スタッフとの情報共有を図り、在宅復帰のサポートをします。

先輩からのメッセージ

近年、呼吸器疾患患者へのST介入に必要性が増し、オーダーも増えていきます。当院は呼吸器とがんの専門病院でもあり、当該器疾患に対してのリハビリ数が多く、知識と経験を身に付けることができます。一般病棟では周術期～終末期と幅広い時期の患者さんと接する機会があります。加えて重症心身障害者（児）のリハビリ介入もあるため、一般とはまったく別の視点で摂食嚥下障害や認知機能を学ぶ機会に恵まれます。より広く柔軟なリハビリ視点を経験できる環境です。



岩国医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士23名

作業療法士9名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は岩国市を中心に広島県・島根県の一部まで幅広くカバーしており、半径40km・約40万人の医療圏における唯一の救命救急センター、2・3次救急医療および災害医療の要として機能しています。職員は地域の皆さまに信頼される病院であるとの自負をもって働いています。高台にあるため、晴れた日は素晴らしい瀬戸内海の景色が見えるのも自慢です。

職場責任者からのメッセージ



地域における中核病院として幅広い疾患を診療することができます。伝統的に院内でのリハビリテーション科への信頼が厚く専門職として力を発揮できます。離職者が少ないため安定した年齢構成で子育て中の職員も多く、男性職員の育児休暇取得など、ワークライフバランスにかかる取り組みもいち早く検討を重ねてきました。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒740-8510 山口県岩国市愛宕町1丁目1-1
 電話番号（代表）：0827-34-1000
 リハビリテーション科（理学療法士長・作業療法士長）まで
<https://iwakuni.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院の言語聴覚部門では小児から高齢者まで幅広く現れるコミュニケーション障害に対して評価・訓練を行っています。多くは脳血管疾患による言語障害（失語症、構音障害）ですが、呼吸器疾患やがんなど多岐にわたり介入しています。

また、小児の言葉の遅れは、家庭や学校での生活が円滑に行えるよう外来リハビリで支援しています。

高齢患者さんが多く、嚥下障害に対する摂食機能療法のニーズも高いため、患者さんに最適な栄養手段を選択できるよう評価・訓練をすすめています。



教育体制

当科の新人教育プログラムにそって実施し、新人1人に対して指導者を1人配置しています。指導者だけでなく先輩セラピスト全員の診療を見て学ぶ時間を多く取っています。STの業務はリスク管理が必要な場面も多く、院内の吸引実技試験制度があるなど、安全に診療を提供できる体制を整えています。科内の勉強会は年間計画に沿ってPT・OTと合同で開催し、幅広い視野・スキルを習得することができます。

学術活動

学会発表：令和6年度1件

他部門との連携

各科のカンファレンスやラウンドに積極的に参加しています。言語やコミュニケーション、食事にかかる専門職として意見を求められることが多く、患者さんの認知機能・コミュニケーション能力に合わせて支援・工夫を提案しています。特にNSTでは主治医・栄養士・摂食嚥下認定看護師と連携して、患者さんの栄養状態の改善や食形態の調整をきめ細かく行っています。STとしての専門性を活かして仕事ができる職場です。

先輩からのメッセージ

当院は急性期の総合病院であり、小児から成人までの幅広い年代、多くの疾患に対して臨床経験を積める場所です。様々な困難さを抱える方との関わりを通じて色々悩みもでてきます。その際は先輩STのヒアリングをはじめ、その他の職種にも相談をしやすい環境です。先輩や同僚に見守られながら、言語聴覚士として少しずつ成長できています。

ぜひ、国立病院機構中国四国グループで一緒に働きましょう！





柳井医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士7名

作業療法士5名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当院は、神経難病患者（筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多発性硬化症等）、重症心身障害児（者）の専門的医療施設で、山口県全域、広島県西部地区の中核病院として障害者医療を行っています。一般外科はもとより、肛門疾患、直腸、大腸癌の専門的外科治療など入院での人工透析も行っています。

職場責任者からのメッセージ



当院は地域および職員から“選ばれる病院”を目標に、リハビリテーション科は患者さん一人一人に合った安心安全なリハビリテーションを目指しています。瀬戸内海の多島美の絶景を望む、素晴らしい心安らぐ環境の中でスタッフが日々研鑽を積みながら、臨床や研究に取り組んでいます。臨床経験を積み、ワークライフバランスを充実させ、みんなで成長していけるような職場を目指しています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒742-1352 山口県柳井市伊保庄95
 電話番号（代表）：0820-27-0211
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://yanai.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

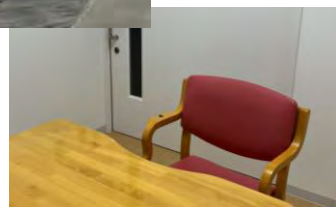
早出あり

遅出あり

部門紹介

当院の言語聴覚療法部門では、脳神経・筋疾患、重症心身障害児（者）を中心に、脳卒中等の脳血管疾患、腎疾患、循環器疾患など幅広い分野の患者さんを対象としています。一人ひとりに合わせた関わりを重視しながら患者さんの能力を最大限引き出し、より良いコミュニケーションが図れるようサポートしています。

また、摂食嚥下障害に対するスクリーニングや嚥下造影検査実施などを医師の指示のもと行っており、最適な栄養手段の選択のための一助を担っています。



教育体制

新人教育としては、新人スタッフ1名に対し指導者1名を配置し、指導や助言をおこないます。リハ科全体でも実際の臨床業務が円滑に行えるよう支援しています。研修会や勉強会などをスタッフ間で積極的に共有しており自己研鑽しやすい環境です。

学術活動

学会発表：令和6年度 3件

院内発表：令和6年度 2件

他部門との連携

各診療部ごとのカンファレンスに参加し、情報共有に努めています。また、栄養サポートチーム（NST）や摂食嚥下委員会にも参加しており、多職種と連携を図っています。

先輩からのメッセージ

当院は幅広い医療に携わることができ、知識や技術の学びやすい職場です。また、福利厚生も充実しており仕事と家庭の両立がしやすく、ライフステージが変わっても安心して勤めることができる職場です！！

ぜひ、国立病院機構中四国グループで一緒に働きましょう！！



対象病期

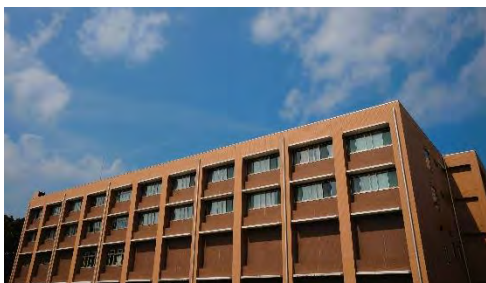
高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 5 名

作業療法士 2 名

言語聴覚士 2 名

当院の特徴

徳島県東部を診療圏として、政策医療である結核・重心病棟の他、一般病棟（地域包括ケア病棟含む）を有し「やさしい笑顔で、あたたかな医療を提供します」を病院の理念として、地域に貢献する医療を実践しています。

職場責任者からのメッセージ



当院リハビリテーション科では、病院の理念の「やさしい笑顔で、あたたかな医療を提供します」に基づいて、患者さん個々に合わせたリハビリテーションを提供しています。他部門や他職種ともコミュニケーションを取りやすく、患者さんの気持ちや目標に寄り添うため、連携しながら取り組んでいます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒779-0105 徳島県板野郡板野町大寺大向北
1-1

電話番号（代表）：088-672-1171

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://higashitokushima.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

令和3年度より言語聴覚士が新設となりました。とくしま医療センター東病院では、主に摂食嚥下分野への期待が大きく、食事評価・指導や訓練の依頼が多いです。

嚥下造影検査（VF）など標準嚥下機能検査も導入しています。その他、音声障害や構音障害、認知機能障害などの依頼も増えています。対象は、呼吸器疾患（結核・COPD・間質性肺炎・誤嚥性肺炎など）・脳血管疾患・外科疾患・重症心身障害児者などが中心です。

今後は高次脳機能障害や失語症などの患者さんの受け入れも検討していく予定です。



教育体制

毎朝リハビリテーションミーティングを実施し、業務や患者さんについて、報告・相談する機会が設けられています。また、リハ科内勉強会を月1回実施しております。実務では、リハビリテーション医・PT・OTへも相談・連携しながら進めることができるような環境です。院内の勉強会、中国四国グループ内施設への研修制度や中国四国グループ主催の研修参加も奨励されています。さらに、臨床研究などの学術活動にも精力的に取り組んでいます。

学術活動

学会発表実績：令和6年度 実績なし

院内研修や地域への各種研修会への参加をしています

他部門との連携

NSTカンファレンスやDOTSカンファレンス（結核）・摂食ラウンド（重症心身障がい児[者]）・包括的呼吸リハカンファレンスに参加し、他部門（医師・看護師・ソーシャルワーカー・臨床検査技師・薬剤師・栄養士など）と患者さんの情報共有を行うとともに、ST介入の対象者の抽出や啓発を行っています。医師・看護師・放射線技師・栄養士協力のもと、嚥下造影検査も実施しています。

先輩からのメッセージ

当院では、呼吸器疾患やがん、内科疾患、重症心身障がい者（児）のリハビリテーションなど対象となる年齢や領域は幅広く経験することができます。リハビリテーション科の雰囲気もアットホームで働きやすい環境です。また、NST委員会や摂食ラウンドなどがあり、多職種との連携も取りやすい環境が整っています。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 9 名

作業療法士 5 名

言語聴覚士 3 名

当院の特徴

政策医療である神経筋疾患に対する医療を主に提供しています。県内にとどまらず、他県からの紹介も多く、医師や看護師、コメディカル部門との連携も充実しており、質の高い医療サービスが実現できるような体制です。古くからスポーツ医療も盛んで県内の中高生が多く来院し、リハビリテーションを実施しています。また、ロボットリハビリテーションにも取り組んでおり、10年以上の実績があります。

職場責任者からのメッセージ



リハビリテーション科は「常に患者さんの病態を把握できるように日頃から資質の向上に努める。常に患者さんに寄り添ったリハビリテーションを提供する。」をモットーに臨床に臨んでいます。

当院では慢性進行性に病態が変化する神経筋疾患の患者さんが多く、中には精神的に疲弊している患者さんもおられます。高度で質の高いリハビリテーションを提供するにあたって、自らのスキルを向上させることはもちろんのこと、誠心誠意、患者さんに寄り添って医療にあたることが重要と考えています。「治療してあげているのではなく、させていただいている」。治療を通して患者さんから学ぶことも多く、注意深く観察することで成長していくことができると思います。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒756-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地
 徳島県吉野川市鴨島町敷地1354番地
電話番号（代表）：0883-24-2161
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://tokushima.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

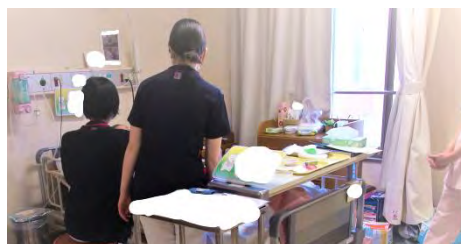
早出あり

遅出あり

部門紹介

本院は筋ジストロフィー医療の四国で唯一の専門病院です。言語聴覚療法では、筋ジストロフィーやパーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症等の神経筋疾患さんが主な対象となっています。摂食嚥下に関しては、摂食嚥下認定看護師をはじめとする多職種で構成されたSNST(摂食嚥下栄養サポートチーム)で、進行する疾患患者さんの食べたい思いを支援しています。

また、成人、小児ともに外来リハビリも実施しています。特に小児領域では、言語・コミュニケーション障害や摂食嚥下障害に対するアプローチを行っています。



教育体制

ST部門全体で新人の教育を行っています。入職当初は、先輩の臨床を間近で見学し、知識や技術を習得していきます。その後、少ない人数から担当していき、徐々に担当数を増やしたり、担当患者の重症度を上げていきます。

院内の研修会も多数予定されています。

学術活動

令和6年度 0件

他部門との連携

定期的な多職種(医師、看護師、薬剤師、栄養士等)とのカンファレンスが行われています。カンファレンス以外にも、病気の進行に伴う、嚥下機能、コミュニケーション機能等についての情報共有を主治医、病棟看護師と密に行っています。

先輩からのメッセージ

当院では、神経筋疾患の患者さんを中心にリハビリを行っています。私は、グループ外の施設で12年間勤務しており、今年度で二年目になりました。専門性の高い分野であり、知識不足を痛感すること多いですが、上司や同僚、多職種の方々と力を合わせ臨床に臨んでいます。

国立病院機構で一緒に働きましょう！



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士5名

作業療法士4名

言語聴覚士2名

当院の特徴

地域を支える病院として、①香川県の難病医療支援ネットワークにおける神経筋疾患分野の拠点病院としての難病医療、②結核を含む呼吸器疾患に関する専門医療、③高齢者や障害者にも優しい一般医療、の3つの機能を柱として診療にあたっています。

職場責任者からのメッセージ



当院は神経難病や呼吸器疾患の患者さんを中心とした維持期リハビリテーションや、急性期病院から転院してこられた患者さんに対して、患者さんの目線で自宅退院を想定したリハビリテーションを展開しています。スタッフのチームワークは抜群に良く、コミュニケーションを大事にしながら患者さんに寄り添うリハビリテーションを提供しています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒761-0193 香川県高松市新田町乙8

電話番号（代表）：087-841-2146

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://takamatsu.hosp.go.jp/>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

対象は神経筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症等）の患者さんが半数以上、次いで呼吸器疾患の患者さんが多く、内容はディサースリアに対する構音訓練、高次脳機能評価、嚥下訓練が中心です。診断がついた直後から長期的に介入する機会も多いので、患者さんの大切な人生を共に過ごすつもりで病期に合わせたプログラムを練っています。関係者会議やアドバンスケアプランニングにも参加し、全人的な医療の一端を担えるよう心がけています。

またパーキンソン病短期集中リハビリテーション入院においてはST2名ともLSVT®LOUDの認定を取得しており、集中的な訓練を実施するとともに、効果の定着に向けて退院時にはケアマネージャーやご家族に情報提供しています。



教育体制

科内では定期的に勉強会を開催しており、訓練方法の見直しや、学会のプレ発表会の場にもなっています。

主治医も含めた多職種カンファレンスも活発で、多方面から充実した意見を得ながら現場経験を積んでいきます。

県士会やその他勉強会への参加も支援しています。

学術活動

令和6年度 2件

第25回日本言語聴覚学会発表

「パーキンソン病に対する短期集中リハビリテーション入院の意義」

「アドバンスケアプランニング(ACP)における言語聴覚士の役割 多系統萎縮症在宅サポート入院を経験して」

他部門との連携

毎週多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）でのカンファレンスが行われ活発に意見交換しています

嚥下造影検査では、医師・看護師・管理栄養士・診療放射線技師と評価し、その場で訓練方法や食事形態、栄養補給方法についての今後の方針などを検討しています。

先輩からのメッセージ

患者さんの変化していく状態の中で、「食べること」「伝えること」を続けていくためのリハビリテーションには、より細やかな評価や専門的な知識が必要ですが、その分大きなやりがいを感じることができます。また、在宅～入院までと長期的な関わりの中で、機能面だけではなく、その方の生活場面や人生といった幅広い視点からのアプローチを行えることも当院の特徴だと思います。悩むことも多いですが、同僚の先輩方にすぐに何でも相談できる雰囲気職場なので、大変心強く、安心して楽しく仕事ができています。

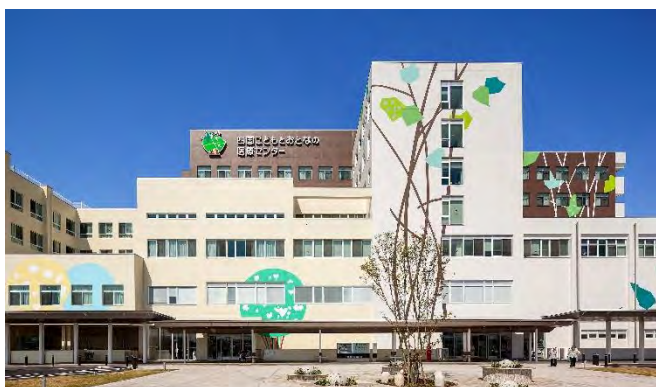




四国こどもとおとなの医療センター

対象病期

急性期	回復期	慢性期	維持期
-----	-----	-----	-----



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士15名 作業療法士6名 言語聴覚士6名

当院の特徴

当院は成育医療、成人医療、重症心障害児者に医療を提供出来る複合型の病院あることが特徴です。リハビリテーション科では小児から成人まで、そして急性期から慢性期まで、多種多様なリハビリテーションを提供しています。当院の「ホスピタルアート」も必見です。まずは是非HPをご覧ください。

職場責任者からのメッセージ



“こども も おとな も 支える”がテーマの当科では、年齢や疾患を問わず、さまざまなケースに関わりながら臨床力を磨くことができます。多職種が連携するチーム医療の中で、現場力と対応力が育つ環境です。人と深く向き合い、成長したいと思う職員が多数在籍しているので、若手職員にとっては安心感のある職場といえます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒765-8507 香川県善通寺市仙遊町2丁目1-1
 電話番号（代表）：0877-62-1000
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://shikoku-mc.hosp.jp/>

言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門は成人リハビリと小児リハビリがあります。成人リハでは脳血管疾患で入院された患者さんの言語訓練と嚥下訓練を行い、また誤嚥性肺炎などで入院された患者さんの嚥下訓練を行います。

小児リハでは主に外来のお子さんの言語訓練を行います。対象疾患は言語発達遅滞、自閉症スペクトラム障害、ダウン症、構音障害、口蓋裂、吃音、難聴などです。

その他の業務として、小児耳鼻科の難聴/補聴器外来の聴力検査やNSTラウンドへの参加、また、地域の1歳半/3歳児健診の聴力検査を行っております。

休日出勤は1名出勤し、主に成人の入院患者さんの訓練を行います（スタッフの状況により変更があります）。

成人分野（主に急性期）、小児分野、聴力検査など幅広い業務を経験できることが当院の言語聴覚療法部門の魅力です。



教育体制

新採用の方に対しては新人教育プログラムに沿って指導を行います（1年間のスケジュールを組んでプリセプターが指導）。

新採用、転入者オリエンテーションも充実しております。悩みや疑問など何でも話しやすい、相談しやすい環境作りに努めています。

学術活動

リハビリテーション科で学術委員会を運営し、科内勉強会や他病院との研修会などを定期的に行っております。

国立病院学会やその他学会への参加、演題発表も積極的に行っております。

他部門との連携

医師、看護師、MSW、栄養士などコメディカルスタッフと定期的にカンファレンスを行い、患者さんの治療方針などの情報を共有しています。

また、NST（栄養サポートチーム）のメンバーとして、NSTラウンドとカンファレンスに参加しています。

先輩からのメッセージ

当院は急性期病院であり、小児から成人まで多種多様な疾患のリハビリテーションを経験することができます。担当する患者さんは多いですが、その分、多くの臨床経験と知識を積むことができます。患者さんの病態や評価・訓練内容についてSTだけでなく、PT/OTの担当者とも気付いたことをすぐに相談できる環境が整っています。



四国がんセンター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士5名

作業療法士1名

言語聴覚士2名

当院の特徴

当院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、2019年にはがんゲノム医療拠点病院に指定されました。また緩和ケア病棟が併設されており、がん患者さんの急性期から緩和期まで医療体制が整備されています。

職場責任者からのメッセージ



当院は主に「がんのリハビリテーション」を実施しています。周期・進行期から緩和期までがん医療におけるリハビリテーションの役割を担っています。療法士はもちろん、医師・看護師も「がんのリハビリテーション研修」を受講できる体制が整備されています。また、当院は研修を主催する立場にあり、研修会では講師やファシリテーターを努めています。診療業務に加えて研究活動にも力を入れており、文献抄読会や関連学会での発表、論文執筆などを積極的に行っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒791-0280 愛媛県松山市南梅本甲160

電話番号（代表）：089-999-1111

<https://shikoku-cc.hosp.go.jp/>

リハビリテーション科（職場長）まで



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、2019年にはがんゲノム医療拠点病院に指定されました。また、緩和ケア病棟が併設されており、がん患者さんの急性期から看取りまでケアする体制が整備されています。

リハビリテーション内容は、頭頸科領域を中心に消化器や呼吸器疾患等幅広い疾患を対象とした周術期リハビリや化学療法・放射線療法治療患者さんに対する有害事象に配慮しながらの維持期リハビリテーションや緩和期のリハビリテーション等多岐にわたっています。



教育体制

当院のセラピストは「がんリハビリテーション料」の算定をするために「がんリハビリテーション研修」の受講が必須となります。また、当科の新人教育プログラムに基づき診療が行えるようサポートしています。その他週1回の文献抄読会を行い、知見を深めています。

学術活動

日本言語聴覚士協会
愛媛県言語聴覚士協会
四国がんリハビリテーション勉強会
日本がんリハビリテーション研究会
日本摂食嚥下リハビリテーション学会

他部門との連携

リハビリテーションカンファレンスや頭頸科カンファレンス、多職種カンファレンス等に参加することで、医師や看護師、管理栄養士、臨床心理士等と情報共有しています。また、退院時は地域連携室やMSW等と連携し退院後の生活の準備に対応します。

先輩からのメッセージ

頭頸部がんや食道がんの周術期リハビリテーションを中心に脳転移等の高次脳機能障害、誤嚥性肺炎を対象とした呼吸器リハビリテーション等幅広く対応しています。治療を行う際の副作用や合併症を考慮しながら総合的にアプローチし、より良いリハビリを提供できるよう精進しています。PT/OT/STの距離も近く、雰囲気よく勤務しています。一緒にがんリハビリテーションのエキスパートを目指して知識を深めていきましょう。



愛媛医療センター

対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士4名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当医療センターは政策医療と地域医療を2本柱としています。政策医療では結核、重症心身障害、神経難病の専門医療施設として広く県内から患者さんを受け入れています。またポストNICU病床を設け、障害を持った小児医療にも取り組んでいます。地域医療としては東温市と周辺地域の一般急性期医療に加え、高次の循環器・呼吸器・神経・運動器疾患のリハビリテーションや生活習慣病対策にも力を入れています。平成28年4月からは松山医療圏の2次救急輪番病院として救急医療の一端を担っています。

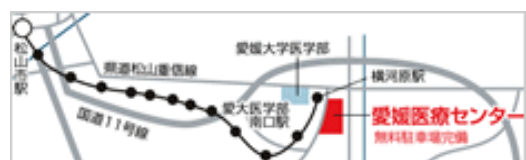
職場責任者からのメッセージ



当科のリハビリテーション対象疾患は、運動器・脳血管・呼吸・循環・障害児者など多岐に亘っており、療法士には幅広い知識と技術が必要とされます。そのため技術の研鑽だけでなく、学会発表や各領域の勉強会・研修会への参加等の学術活動、各資格取得などを奨励しています。今年度は新卒PT2名を迎え、より基礎的な内容を中心に勉強会を定期的に実施し、新人教育にも力を入れています。ぜひ、国立病院機構中国四国グループで一緒に働きましょう。

アクセス お問い合わせ先

所在地：愛媛県東温市横河原366
 電話番号（代表）：089-964-2411
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://ehime.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法では、神経筋難病、脳血管障害、呼吸器疾患、心疾患などの患者さんに対する摂食嚥下訓練や構音訓練、高次脳機能訓練、コミュニケーションツールの検討、呼吸訓練に関わっています。

また重心病棟でも定期的な嚥下機能評価の実施や訓練、コミュニケーション練習を行っています。

患者さんの状態に応じてパソコンやiPadを利用したコミュニケーションツールの習得にも取り組み、患者さんに寄り添った訓練を目指しています。



教育体制

新人教育プログラムをマニュアル化し新人の育成、また症例検討や院内勉強会などの学術活動を推進しています。“気づき・考え方”の幅の広がりに着目し、さまざまな方面から患者像を捉える事ができるよう、各スタッフ間で密にコミュニケーションを取る事で、指導・助言を行っています。

学術活動

昨年・一昨年と、NST・医療安全と共同で、院内における誤嚥窒息予防を目標に、嚥下のメカニズムから口腔ケア、食事形態、食事介助方法まで、数回シリーズで研修会を行いました。

他部門との連携

呼吸、栄養、糖尿病などのさまざまなサポートチームにリハビリテーションスタッフが所属しています。言語聴覚士として栄養サポートチームや看護部の嚥下勉強会で研修会を行い、チーム医療の一員として患者さんに貢献できるよう励んでいます。

先輩からのメッセージ

当院はご高齢の患者さんが多く、食べられない要因は口腔の問題だけでなく多岐に渡っています。患者さんやご家族の気持ちに寄り添い、どのように進めていけばよいかを、多職種で相談しながら日々の訓練を行っています。機能訓練以外にも様々な方向からアプローチできるよう、取り組んでいきたいと思っています。





高知病院

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士3名

言語聴覚士2名

当院の特徴

当院では、主に呼吸器疾患、整形疾患、がん、重症心身の患者さんに対して理学療法を行っております。呼吸器に関しては、平成23年8月に呼吸器センターを設立し、医師、コメディカルと協力して包括的に診療することができるようになっております。整形疾患では、脊椎疾患、人工関節、骨接合術後の患者さんが多く早期から関わっています。

職場責任者からのメッセージ



私たちは「患者さんへ最善のリハビリテーション医療を」という理念のもと、職員一人一人がリハビリテーション専門職として働いています。高知県では唯一の国立病院機構施設で、結核病棟や療養病棟、新型コロナウイルス感染症病棟といった地域のセーフティネットの役割を担っています。また整形外科の手術件数が多く、急性期運動器リハビリテーションの専門性を高めることができます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒780-8507 高知県高知市朝倉西町1-2-25
 電話番号（代表）：088-844-3111
 リハビリテーション科（渡利）まで
<https://kochi.hosp.go.jp/>



言語聴覚療法部門

勤務形態

土日休み

土曜出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

言語聴覚療法部門では、主に呼吸器疾患、がん、重症心身障害児(者)の患者さんに対して摂食嚥下機能訓練、発声発語訓練といった言語療法を行っております。

特に呼吸器疾患の患者さんに関して、在院日数の短縮を目的に他部門と連携して、経口摂取の開始ができるよう早期介入しております。

また、重症心身障害児者の方には小児から成人まで幅広く、病棟での生活やニーズに寄り添い、成長を促し、悪化予防に努めて介入させて頂いております。



教育体制

言語聴覚士はもちろん、理学療法士や作業療法士からも職域を超えて指導・助言を受けることができる環境です。他部門とのコミュニケーションも取りやすく、院内外の研修あるいは講習に参加できる体制になっており、臨床業務に対する研鑽や学会発表などの学術活動に対するサポートも行っています。

新人教育としては、1週間程指導者を見学しその後少人数担当していくこととなります。指導者は指導、助言を行い、業務が円滑に行えるよう支援していきます。

学術活動

令和6年度学会発表 0件

過去に国立病院総合医学会、日本言語聴覚学会、県土会等で発表した実績があり、国立病院総合医学会での優秀演題賞・優秀ポスター賞、院内で設立された『谷淳吉賞』を複数回受賞しました。また、フォーラム・講演会・研修会などで講師を務めた実績もあります。

他部門との連携

各病棟、診療科ごとに多職種（医師、看護師、メディカルソーシャルワーカー等）と週に1度カンファレンスを行っています。退院前には適時退院前カンファレンスを行い、情報共有を図っております。重症心身障害児（者）病棟は3か月ごとに主治医、看護師を交え、カンファレンスを実施しています。

先輩からのメッセージ

重症心身障害児者の方から呼吸器疾患、がんの方まで幅広い疾患に関わっており、ニーズに沿った良質なリハビリテーションを実施できるよう日々試行錯誤しております。日々、臨床に関わることにより技術や知識の向上に繋がっていると感じます。

上司や看護師、医師にも相談しやすい環境が整っており、気負いすることなく臨床に挑めています。勉強会や学会にも積極的に参加出来るため、知識の幅は広がりやすいと思います。

現在子育て中ですが、産前休暇、育児休業、子の看護休暇等福利厚生も充実し、安心して働かせて頂いております。

